
はじめに

新しく学級担任になられる方、また初めての学年を担当される方、経験を積んでこられ、さらにより学級経営をするためにちょっとしたコツを知りたいと思っていらっしゃる方、ぜひ本書をご活用いただきたいと思います。

これまでにたくさんの初任の先生方や教員を目指している学生と出会ってきました。彼らの多くが不安に思っていることが、学級経営でした。中学校の教員は、自分の専門とする教科については、ある程度の知識も自信もあります。しかし、学級経営については、着任した学校や出会った生徒によって対応が異なります。また、教員自身が経験したことのない課題を突きつけられることもあります。「学校現場は、ブラックだ」と言われるたびに、学級担任としてちゃんとやっていけるのか不安になることも多いでしょう。年度当初の学級は、単なる個の集まりです。もちろん、課題を抱えた生徒が多い学級、穏やかで真面目な生徒が多い学級もあるでしょう。しかし、そのままの姿が年度末の姿ではありません。教員の学級経営の力によって、学級の姿は変わってきます。

今、日本の教育は海外からも注目されています。日本の教育は、認知的能力と非認知的能力をバランスよく育てています。認知的能力とは、知識や思考力などの力を指します。非認知的能力とは、他者との協働、目標の達成、感情のコントロールといった力を指します。つまり、日本の教師は、授業だけでなく、朝の会から給食指導、家庭学習の仕方、健康や安全、生徒同士の人間関係づくり、学習指導以外の多くのことを指導しているのです。日本の教員が、大変優秀であると言われるのは、学習指導だけでなく学級経営においても素晴らしい力を発揮しているからではないでしょうか。

本書は中学校の学校現場で、生徒が幸せな学校生活を送れるような学級経営をしたいと思っている学級担任の先生方が、イメージをもってすぐに使える本をと考え、作成したものです。と同時に、さらに新たな視点をもって実践をしていきたいと考えられている方に向けた本でもあります。

第1章が理論編、第2章が事例編の2部構成となっております。理論編では、基礎となる考え方を簡潔に説明し、事例編は学級担任として〇月には、何をすべきか、どのような工夫をしたらよいかなどをコンパクトにまとめています。まずは「やってみよう」と挑戦してみてください。本書が望ましい学級経営を通して健全な生徒を育てようと、取り組まれている先生方の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行に当たりご尽力いただいた東洋館出版社の石川夏樹氏、学校現場でご活躍され、素晴らしい実践を寄せてくださった大野由希子先生、ともに編集にあたっていただいた植村裕之先生に心より御礼を申し上げます。

2023年1月31日

橋谷由紀

本書活用のポイント

本書では、4月から3月まで毎月どのような学級経営を行っていけばよいか、各月の目標・注意事項を解説しています。また、学級経営の具体的なアイデアを、イラストをもとに、どのクラスでも運用できるような形で紹介しています。是非、ご自身のクラスでも実践してみてください。

■本書の見方

月初め概論ページ

4

ドキドキからワクワクへ！ 4月 不安を共有し、安心に変える4月

4月の目標

「このクラスは自分を出しているのか」「自分ができることを第一頑張るぞ」等、生徒の不安や不安定な様子もワクワクに変えられるような時期を準備しましょう。学級開き、学級開きや学級目標を決める時期。4月には生徒の心を安定させるアイデアがたくさんあります。自己開示して認められる機会をなるべくたくさん用意してください。

4月の学級経営を充実させるために

【自分の理想とイメージを明確に】
親戚などのようなクラスを作りたいためか、そして、生徒一人一人がどのような人になりたいのか、明確なイメージをもちましょう。なるべく具体的に、わかりやすく、「このクラスにはこうなってほしい」と、そのためにこんなことを実現してほしい」と伝えられるとよいです。

【生徒とはどうしたい？ 2年生の発言をもたせろ】
2年生の存在を強く意識させましょう。2年生の担任として、新入生ではなく、新入生を迎える2年生のまなざしや姿勢を評価してあげてください。入学当初のような、期待に満ちた表情をしている2年生は少ないかもしれませんが、昔の自分が新入生に集まっている中、自分たちを中心に立てられている教師がいるだけで、2年生の発言は増えます。

【誰かから場所を奪ってほしい】
去年のクラスがよくなったと聞く生徒もいますが、その気持ちに寄り添いつつ、今どうするかを考えるよう伝えましょう。

注意事項

4月は、生徒にもやる気があがってきていることが多いです。4月の生徒の状況や活動的な態度を見守り、理想を語らないうえ、少し無理な見込みも5月以降に教員が苦しみ、尻尾に満足せず、担任が悩むことによって、もっとよくなる3月のクラスをイメージして話してください。

学級経営アイデア紹介ページ

春休み中の準備

ねらい
期りははじまりだ！と動いているのに、自分は何をすればよいのかわからず不安に思う先生も多いことでしょう。春休み明けの準備しておくべきことは何か、整理しよう。

指導のポイント
春休み中も準備しておくべきことはたくさんあります。ただ、準備しておく必要のないことや、担任がどのような準備をしようとしているのか（伊賀担任）、学年主任などの学年学級経営をしようとしているのか（学年学級経営）、をしっかりと把握しましょう。その上で、①どのようなクラスが理想か ②どのような年を育てたいか ③学期にしよう。

学校目標
校長が語る学校の理想。
例）大きな夢で「心豊かな人になろう」
それを支える具体的な姿
自分の力を伸ばそう
知識を求め、進めよう
思いやる心をもとう
心身ともに元気にしよう

学年経営目標
学年主任が語る学校の理想、校長の思いを受けて、学年経営目標が作られます。
例）「やらねばならぬ！ 生徒の育成」

学級経営目標
担任が語るクラスの理想。
例）「誰かから場所を奪ってほしい」
自分自身の立場を受け止め、その中で最大限の努力ができる年を目標にしよう。

イメージをも

01 学校目標はその学校の理想
4月の最初の職員会議で、授業の必ず行う内容として、学年主任が語る学校の理想、校長の思いを受けて、学年経営目標が作られます。その上で、①どのようなクラスが理想か ②どのような年を育てたいか ③学期にしよう。

02 学年経営目標
同じく4月の最初の職員会議で、授業の必ず行う内容として、学年主任が語る学校の理想、校長の思いを受けて、学年経営目標が作られます。その上で、①どのようなクラスが理想か ②どのような年を育てたいか ③学期にしよう。

03 学級経営目標
担任が語るクラスの理想。例）「誰かから場所を奪ってほしい」
自分自身の立場を受け止め、その中で最大限の努力ができる年を目標にしよう。

04 生徒発言は参考程度に
2年生の発言を受け止めることは大切ですが、その発言をそのままに受け止めることは危険です。生徒の発言を受け止めることは大切ですが、その発言をそのままに受け止めることは危険です。生徒の発言を受け止めることは大切ですが、その発言をそのままに受け止めることは危険です。



1 目標・注意事項

その月の学級経営での目標、考え方、注意事項を紹介しています。月ごとに何をやるべきなのかを学んで共有する際、このページが参考になります。1年間というスパンで子ども・クラスの成長を捉える中で、月ごとにPDCAを回していきます。

2 月のねらいに合わせた実践例

ここでは、その月のねらいを達成するために、オリジナルの実践例を紹介しています。教師の言葉かけから、ゲームなど幅広い内容となっています。自身の学級経営にマンネリを感じてきたら、是非、ここでのアイデアを実践してみてください。

3 活動の流れ

紹介する活動について、そのねらいや流れ、指導上の留意点をイラストとともに記しています。その活動のねらいを教師がしっかりと理解することで、教師の言葉かけも変わってきます。この一連の活動で、その月の学級経営の充実を目指していきます。

4 中心となる活動・場面など

紹介する活動において、中心となる活動や場面、教材、板書例などに焦点を当て、活動の大切なポイントを解説しています。その後のゴールのイメージをもつ際に役立ちます。学級経営では、生徒の発言を受け止める、つぶやきを大切に、温かな言葉かけが大切です。

もくじ

第2学年における 学級経営の ポイント

第2学年の 学級経営

はじめに ……001
本書活用のポイント ……002

中学校の学級経営 ……008
教師の姿勢が学級をつくる ……010
2年生の担任になったら ……012
保護者とつながる学級経営 ……018
学校行事を学級経営に生かす ……020

4月 不安を共有し、安心に変える ……024

春休み中の準備 ……026
学級開き ……028
新入生歓迎会 ……030
学級組織決め ……032
学級目標決め ……034
掲示物作り ……036
給食の指導 ……038
学級懇談会 ……040
遅刻・欠席・早退対応 ……042
学級通信・黒板メッセージ ……044

5月 勢いではなく計画的に ……046

体育祭 ……048
人間関係づくり ……050
教室環境整備 ……052
教科担任と生徒をつなぐ ……054
生徒総会 ……056
教育相談 ……058

6月 生徒同士の絆、心地よい距離感をつかませる ……060

定期テストに向けて ……062
合唱コンクール曲決め ……064
健康教育 ……066
総合体育大会 ……068
ソーシャルスキル・トレーニング ……070

7月 3ヶ月の評価を保護者に的確に伝える ……072

情報モラル ……074
職場体験学習 ……076
夏休み前の通知表作成 ……078
夏休み前の三者面談 ……080
仲を深める学級レク ……082
夏休み前の指導 ……084

8月 「教師力」をさらに向上させる ……086

学びたいことを学ぼう ……088
夏休みに学級と関わる ……090

9月 クラスの自動運転化を目指す ……092

生徒指導のポイント ……094
避難訓練 ……096
夏休み中の転出入 ……098
2学期の学級組織決め ……100
学習に関連する面談 ……102

10月 まいた種を少しずつ開花させる ……104

合唱コンクール ……106
2年前半の振り返り ……108
制服の着方 ……110
校外学習・宿泊行事 ……112
生徒会役員選挙 ……114

11月 個に目を向ける ……116

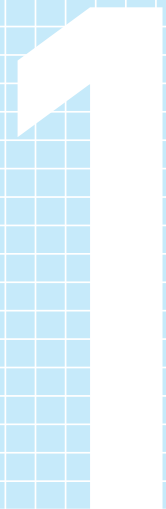
進路指導 ……118
学ぶことの意義 ……120
文化祭 ……122
電話対応 ……124
不登校生徒の対応 ……126
配慮を要する生徒の対応 ……128

12月 日本の伝統と文化で生徒の気持ちを育てる ……130

教科の行事 ……132
冬休み前の三者面談 ……134
大掃除 ……136
冬休み前の学級レク ……138
冬休み前の指導 ……140

1月	3年生進級に向けて準備を始める ……142
	人権教育 ……144
	3年生に向けての意識付け ……146
2月	修学旅行の準備 ……148
	やり残したことがあったら今すぐ挑戦 ……150
	生徒への声のかけ方 ……152
	薬物乱用防止教室 ……154
3月	学年末の通知表作成 ……156
	来年度へ羽ばたかせる準備をする ……158
	球技大会 ……160
	3年生を送る会 ……162
	最後の学級レク ……164
	学級じまい ……166
	キャリア・パスポート ……168
年度末の担任業務 ……170	
付録 ……172	
編者紹介・執筆者一覧 ……174	

第2学年における 学級経営の ポイント



中学校の学級経営

1 学級経営とは

学級経営の定義や意義については、様々な考え方がありますが、本書では、学級経営は、学校における児童・生徒の基本的な活動単位である学級を教育的な目標に即して組織化し、教育活動を充実させていく教師の仕事とします。ですから、生徒理解、生徒指導、教育相談、学習指導、教室環境等の整備、学級事務などのすべてが含まれると考えます。

学級は、生徒にとって、学習や生活など学校生活の基盤となる場です。生徒は、学校生活の多くの時間を学級で過ごすため、学級における自分と友達との関係や、自分と学級集団の関わり方の在り方は、学校生活そのものに大きな影響を与えます。そこで、学級経営の中でも学級集団としての質の高まりを目指したり、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を構築しようとしたりすることを、その中心的な内容とします。

学級経営＝教育活動を充実させる教師の仕事

- ・生徒理解
- ・生徒指導
- ・教育相談
- ・学習指導
- ・教室環境等整備
- ・学級事務 など

2 中学生の発達の段階における課題

中学校段階の生徒の主な特徴として挙げられるのは、思春期に入り発達は個別に異なりますが、急激な身体的発達、精神的発達の時期を迎えるということです。自分には、家族や周りの友達と異なる独自の内面の世界があること、また、周りの友達にもそれぞれ内面の世界があることに気づき、大人との関係よりも友達との関係が自分にとって大きな意味をもつと感じてきます。さらに反抗期を迎え、親などの大人に対してコミュニケーションがとりにくくなることもあります。友達からの評価を強く意識し、自分自身に対する意識と客観的事実との違いに悩み、様々な葛藤の中で自らの生き方を模索し始めます。また、性意識や異性などへの興味・関心も高まります。未熟ながらも体も心も大人に近づき、大人の社会と関わる中で、大人もそれぞれ自分の世界をもちつつ、社会で責任を果たしていることに気づくようになる時期でもあります。

また、学校生活においては、小学校までとは違う新しい友達との出会いや、教科担任制や部活動などでの多様な教師との出会い、社会的な視野の広がり、そして進路の選択など新しい環境や課題に直面していきます。そうした中、生徒は、現在及び将来における自分の生き方について考え始めますが、価値観が多様化し、生き方にも様々な変化や課題が生じている現代の社会にあっては、すべての生徒が望ましい生き方を自覚し、これを深められるとは限りません。中には、自分の生き方に不安を抱き、挫折や失敗によって、自信や意欲を失っている生徒も少なくはありません。学級経営の中で、自己肯定感を高め、将来を肯定的に捉えられるようにすることも中学校教師の大事な仕事なのです。

3 学級経営の充実と特別活動

このように中学生の時期には、自我の目覚めや心身の発達により自立への要求が高まります。そこで、生徒の自発的、自治的な活動を可能な範囲で尊重し、生徒が自らの力で組織をつくり、活動計画を立て、協力し合って学びに向かう集団づくりができるように導くことが大切になります。

特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動・学校行事における資質・能力を育む役割だけでなく、全教育活動を通じて行われている学級経営に寄与します。学級経営は、特別活動を要として、計画され、更なる深化が図られます。そしてそれが、学びに向かう集団づくり、各教科等での「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の上での基盤となるのです。

中学校学習指導要領には、第5章 特別活動の第3の1の(3)に次のように示されています。

学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、**学級経営の充実を図ること**。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること

学級活動は自治的な活動であり、よりよい学級の生活を築き学級の文化を創造するため、集団として問題発見や話し合いを通しての合意形成や、話し合いで決まったことを協力して実践することが中心となる活動です。学級での話し合い活動は、学級活動や生徒会活動の中心となるものですが、学校行事の充実のために、学級における提案や取り組みの在り方などについて、合意形成をする上でも重要な機能を担っています。自発的、自治的な活動の充実は、休み時間、放課後などにおいても、生徒の人間関係等により影響をもたらします。

現行の学習指導要領では、これまで小学校学習指導要領の総則及び特別活動のみに記述されていた「学級経営の充実」が中学校学習指導要領の総則及び特別活動にも示されています。これは、中学校の学習や生活においても、その基盤となる学級としての集団の役割が、重要であると認識されてきたためでしょう。学級活動を通して、生徒は、学級への所属感や規範意識を高め、学級を安心して学習できる居場所になります。また、一人一人の生活の課題を解消し、自己実現に向け、学ぶ意義の理解を深めたり、自分の進路を考えたりしながら、学習に主体的に取り組むことができるようになっていくのです。

教師の姿勢が学級をつくる

1 教師の願い

学級担任であれば、誰もが共通に願うのは、楽しく豊かな学級生活を築き、質の高い学習を展開し、どの子も健やかに成長できるようにすることでしょう。だからこそ、学級担任は生徒たちや保護者と好ましい関係をつくるとともに、生徒同士のよりよい人間関係を築くために努力するのです。

年度当初の学級は、単なる個の集まりであり、教育効果が高まる学級にはなっていません。どのクラスも同じようなものです。もちろん、課題を抱えた生徒が多くいる学級、穏やかで真面目な生徒が多くいる学級など、いろいろあることでしょう。ところが、ひと月も過ぎると少しずつ差が出てきます。年度末には、「進級してもクラスのみならずと別れたくない」というクラスと、「早くこのクラスの人と別れたい、このクラスにはいたくない」という声が聞こえるクラスがあります。学級経営には、学級担任の人間としての生き方や人間性が深く関わっています。

2 教師が心がけたいこと

中学生は、生徒の自主性が高まるとはいえ、生活体験や社会体験はまだ少なく、教師の適切な指導や個別的な援助などが必要です。そのためには、個々の生徒をよく理解するとともに、集団の場面における指導や個別的な援助の在り方の工夫に努め、生徒の自主的、実践的な活動を促していくことが大切になります。学級経営において、教師が心がけたいこととして7つ挙げます。

- 温かい雰囲気をつくって生徒に安心感を与える。
- 人権に反する言動には厳しく戒め、思いやりや優しさの行動には積極的に認め、賞讃する。
- 安全に関わる指導を徹底し、教室に秩序と規律をつくる。
- 一人一人の生徒とじっくり関わったり、保護者と信頼関係を築いたりし、個々の生徒のよさや可能性、課題を把握し、個に応じた指導をする。
- 生徒を励まし信頼し、生徒が自ら考え挑戦することを奨励し、失敗した時も寛容の心で許し、積極性を育てる。
- どの生徒にも、役割があり、活躍できるようにするとともに、すべての生徒が安心して過ごせる教室環境と居場所をつくる。
- 自分の学級の学級経営だけでなく、学年の教師が互いに協力し合う学年経営の充実を図る。

3 学級づくり

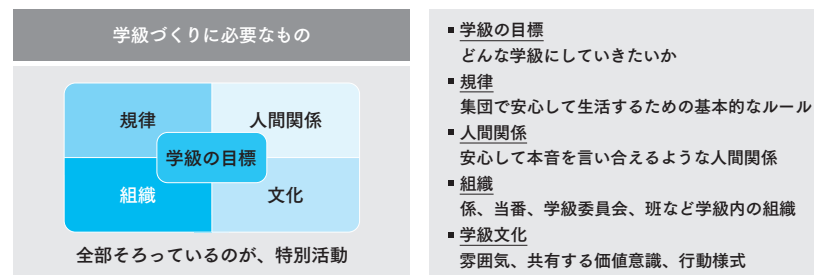
教室には、その学級特有の空気感があります。「温かい」、「明るい」、「楽しそう」反対に、「冷たい」、「暗い」、「苦しそう」などですが、学級風土は、生徒たちの学校生活に大きく関わっています。そこにいるだけで、安心して何事にも取り組み、主体的で協働的な学びができ、いじめ等を未然に防ぐこともあれば、緊張し、やる気をなくし、いじめ等を生み出すこともあるのです。前者が支持的風土（支え合い認め合う関係）、後者が防衛的風土（監視し合い批判し合う関係）です。その学級風土には、生徒の構成や教師のタイプなどが影響しています。木原孝博氏は、教師のタイプを受容的態度（A/a）と要求的態度（D/d）のそれぞれの強さをもとに、「adタイプ」「Adタイプ」「aDタイプ」「ADタイプ」の4つに分け、受容的態度も要求的態度も強い「ADタイプ」を、理想としています（木原孝博著『学級社会学』）。教師が、受容ばかりの優しさだけでは、学級の規律やルールが守れませし、要求ばかりの厳しさだけでは、生徒の気持ちが離れてしまいます。優しさと厳しさをバランスよく兼ね備えることで、学級に支え合い、認め合える人間関係が育みやすいのです。

教師のタイプ

強度	強い	弱い
受動的態度 (accepting attitude)	A	a
要求的態度 (demanding attitude)	D	d

[参考：『学級社会学』]

次に学級づくりに必要なものと考えていきます。まずは学級の目標です。学級の目標は、教師が意図をもって、生徒たちと話し合いながら決めていく学級のよりどころとなるものです。教師と生徒たちみんなで作くり、全員が共通理解しておくことが大切です。次に学級の規律です。一人も取り残すことなく、学級の全員が安心して生活するための基本的なルールが必要です。そして、もちろん、安心して本音を言い合えるような人間関係も欠かせません。さらに、係、当番、学級委員会、班など学級内の組織や共有する価値意識、行動様式などの学級の文化も挙げられます。



2年生の担任になったら

1 2年生の特徴

新年度を迎えると、生徒はそれぞれ新しい目標を掲げ、心機一転活躍したいという気持ちをもっています。特に2年生は、先生や上級生から手取り足取り教わりながら過ごしてきた1年間の中学校生活の経験から、少し見通しをもつことができ、さらに、初めての下級生となる新入生が入学してくることで、その思いは一層強くなります。教師にとってみると、「また1年間が始まる」といった毎年のサイクルでルーティンワークのように思えてしまうこともあるかもしれませんが、生徒はそうではありません。新たなスタートを楽しみにしています。

しかし、その一方で、身体的にも精神的にも子どもから大人への移行期であり、心が揺れ動く不安定な時期でもあります。もちろん個人差はありますが、人間関係の悩みやトラブルも多くなり、なぜ勉強しないといけないのか疑問に感じたり、社会や大人への信頼が揺らいだり、将来に対する不安感やいらだちなど、複雑な思いを抱きながら学校生活を送ることもあります。このようなことから、学ぶことの意義や働くことの意義について考えたり、自分の将来や進路について考えたりして、**前向きに生活を送ろうとする意識を高めていく**ことが大事になる時期でもあります。自己の在り方生き方について、道徳との関連も踏まえつつ適切に指導・支援し、生徒が自分自身と向き合うことができる時間を大切にしていきたいものです。

2 2年生学級担任としての心構え

2年生は、前述のとおり、1年生の経験を踏まえて心機一転取り組もうと意欲に燃える一方、心が揺れ動く時期であり、個人差はあるものの思春期真っただ中で反抗期もあり難しい発達段階です。だからこそ、生徒のエネルギーを健全な方向に発揮させる工夫や手立て、適切な指導・支援が必要です。そこが学級担任としての力の発揮のしどころであると考えます。揺れ動く生徒の思いや困り感に寄り添い、誠実に関わっていくことが信頼関係につながっていきます。

(1) 自主性・主体性を引き出す

2年生では、次年度に向け、**生徒が学校のリーダーとして自主的・主体的に取り組むようになるための意識づくり**が大切になります。生徒が自分たちの手で少しずつできるように経験を積ませて

自信につなげていくことが重要です。そして、所属学年の仲間を大切にするとともに、リーダーを支えるフォロワーを育てるために「頑張っている人を大事にしよう」という心を大切に指導したいと考えます。3年生は学校の顔であり、2年生は3年生を支える大切な役目です。また、初めての後輩となる1年生を正しく導くことができるようリーダーシップを発揮できる力を身に付けていかなければなりません。2年生がしっかりしていると学校が縮まるという意識を高めていきたいです。

しかし、1年生のときと異なり、不安定な時期で生徒指導が思うようにならず、「学級が落ち着いていない」と周りの先生方から指摘されて困っている学級担任もいるかもしれません。特に経験の浅い教師にとっては、「後ろ指を指されないようにしたい」「他のクラスや先生方に迷惑をかけないようにしたい」という気持ちが働き、生徒の管理に力が向いてしまうこともあります。それにより、生徒との関係が悪化してしまうこともあるかもしれません。また、生徒はとても敏感で大人の気持ちや考えを察知します。学級担任の意識が管理に向いてしまうことで、クラスのリーダー的立場の生徒が学級担任の意向を反映して「小さい先生」のような動きや役回りをするようになってしまい、クラスの生徒から反感を買ってしまうこともあります。リーダーが一生懸命クラスのために力を尽くそうとしても、クラスは重たい空気になり、リーダーが「みんなが言うことを聞いてくれない」と苦勞することになるかもしれません。

(2) 生徒から学ぶ姿勢で接する

学級担任というのは、常に迷いが生じるものだと思います。「このやり方でよいのだろうか」「自分が求めているのはこの方法ではない」など、生徒のためによりよい指導・支援の在り方を追求すればするほど迷うのは当然です。しかし、生徒と接していつとも感じるのですが、答えは生徒が教えてくれます。一生懸命に生徒のために力を尽くそうとする教師の姿勢に、生徒は必ず応えてくれます。逆に教師が手をあげれば、生徒はすぐにそれを見抜きます。ときに、生徒はこちらの出方を試すこともあります。学級担任として、**生徒の発達の段階や特性、持ち味などをよく理解し、常に生徒から学ぼうとする姿勢**でいることが大切であると考えます。

学級担任は、何を指すのかしっかりとした方向性をもちながらも、柔軟でおおらかに指導・支援にあたることができるかが大切です。学級担任が、毎日楽しみながら笑顔で元気いっぱい明るく生徒に接していれば、生徒も笑顔になり活気が出てきます。教師にとっても生徒にとっても楽しく充実した生活になるのではないのでしょうか。問題は起こって当たり前です。その時こそ指導のチャンスであり、生徒が成長できる場面です。日々生徒の反応を楽しみながら、共に成長していける教師でありたいものです。

3 計画的な学級経営

どんな業務であっても見直しをもって取り組むことは大切です。特に学級担任は学級の経営者であり、学級という組織をまとめ、よりよい成果を求めて経営努力をしなければなりません。学級経営の成果とは、組織の一員である生徒一人一人の個性や能力を伸長し、自律・自立した一社会人へと成長するよう力を高めるとともに、その生徒が互いに高め合える学級風土を醸成してよりよい学

4

ドキドキからワクワクへ！

4月 不安を共有し、安心に変える4月

▶ 4月の目標

「このクラスでは自分を表出しているのか」「自分にできることを精一杯頑張るぞ」等、生徒の不安やドキドキを少しでもワクワクに変えられるような時間を演出しましょう。学級開き、学級組織や学級目標を決める時間等、4月には生徒の心を育てられるタイミングがたくさんあります。自己開示して認められる機会をなるべくたくさん用意してください。

4月の学級経営を充実させるために

「自分の理想とイメージは明確に」

教師がどのようなクラスを作りたいのか、そして、生徒一人一人がどのような人に育ってほしいのか、明確なイメージをもちましょう。なるべく具体的に、わかりやすく、「このクラスにはこうなってもらいたい、そのためにこんなことを大切にしていこうよ！」と伝えられるとよいです。

「去年とは違う！！ 2年生の自覚をもたせる」

後輩の存在を強く意識させましょう。2年生の担任として、新入生ではなく、新入生を迎える2年生のまなざしや姿勢を評価してあげてください。入学当初のような、期待に満ちた表情をしている2年生は少ないかもしれませんが、皆の注目が新入生に集まっている中、自分たちを中心に見ている教師がいるだけで、2年生の表情は華やきます。

「置かれた場所で咲くことの大切さ」

去年のクラスがよかったと嘆く生徒もいますが、その気持ちに理解を示しつつ、今どうするかを考えるよう伝えましょう。

注意事項

4月は、生徒にもやる気みなぎっていることが多いです。4月の生徒の活気や能動的な態度を見て安心し、理想を語らないでいると、少し疲れが見え始める5月以降に教員が苦しみます。現状に満足せず、担任が関わることによって、もっとよくなった3月のクラスをイメージして話をしてください。

学級開き・自己紹介のコツ

▶ねらい：生徒が自然に自己開示のできる雰囲気をつくる

自己紹介をさせると、元1年何組か、氏名、部活動、「よろしくお願ひします」のパターンになります。これだと「みんなと同じことを言うことが正しい」環境を作っていることになりますので、生徒は必死に周りに合わせようとします。自分で考えて、好きなことを言う時間を演出しましょう。

▶活動例

「最低限何を言うか」の中に、生徒の個性が出るお題を1つ以上入れてみましょう。例えば、「好きな○○」や「マイブーム」等、生徒の個性が出るもので少し考えないで話せない内容だと、生徒は一生懸命考えて話します。また、最後に話すお題は6個用意しておいて、話す時にサイコロの目で決めるのも盛り上がり面白いです。さらに、「1年間よろしくお願ひします」を禁止すると、生徒は途端に慌て始めます。「頑張って考えてごらん！こんなに苦しんで考えた言葉をみんなが否定するわけがないよ！」と伝えると、それぞれの言葉で「人見知りなので話しかけてください」「○○と呼んでください」「一緒に○○の話ができると嬉しいです」などと話し始めます。以下のような掲示物を作ってから自己紹介を行ってもよいでしょう。

【自己紹介シート】



- 手順1 中央に名前と似顔絵を描く
- 手順2 誕生日、所属などの基本情報を書く
- 手順3 好きなことや「推し」など、自分のこだわりを書く
- 手順4 自分の性格を書く
- 手順5 エピソードや豆知識などの情報を足していく
- 手順6 隙間があればクラスへのメッセージを書く

「取り扱い説明書」のようになってもよい

「こんな人になりたい、こんなクラスにしたい」等

以上をマッピングのようにつなげていくと、個性あふれる自己紹介カードが出来上がります。

▶活動後のポイント

それぞれが頑張って言葉を紡いで自分のことを表現できたことをしっかりと褒めましょう。自己紹介のあとに、自己紹介の情報をもとに会話が弾んでいたり、勇気を出して仲間へ声をかけていたりする生徒がいたら、すかさず声をかけ、その勇気をたたえ、会話ができた喜びを共有しましょう。

春休み中の準備

ねらい

周りは慌ただしく動いているのに、自分は何をすればよいのだろうかと不安に思う先生もいることでしょう。春休み中に最低限やっておくべきことは何か、整理します。

指導のポイント

春休み中に考えるべきこと、準備しておくべきことはたくさんあります。ただ、準備しても思い通りにいかないのが学級経営です。そのことを念頭に置き、校長がどのような学校を創ろうとしているのか(学校目標)、学年主任がどのような学年を経営しようとしているのか(学年経営目標)、をしっかりと把握しましょう。その上で、①どのようなクラスが理想か ②どのような生徒を育てたいか を明確にしましょう。

学校目標

校長が語る学校の理想。

- 例) 大きなテーマ「心豊かな人になろう」
- それを支える具体的な姿
 - ・自分のよさを伸ばそう
 - ・知識を求め、追究しよう
 - ・思いやる心をもとう
 - ・心身ともに鍛えよう

学年経営目標

学年主任が掲げる学年の理想。校長の思いを受けて、学年経営目標がつけられます。

- 例) 「やわらかでたくましい生徒の育成」

学級経営目標

担任が描くクラスの理想。

- 例) 「置かれた場所で咲く勇気をもてる人になろう」
- 自分の立場を受け止め、その中で最大限の努力ができる人を目指します。

【目指す学年像】



学年経営目標の会議では、学年主任から「こんな学年にしたい」「こんなことを大切にしたい」と語られます。

これらを担任として学級へどうつなげるのかを考えます。例えば、「社会性を身につけた礼儀正しい生徒を育てる」ために「日頃から挨拶の大切さを伝え続ける」ことが学年経営目標の一つとして掲げられている場合は、生徒が楽しく挨拶できるようにするためにクラスの雰囲気作りをするには、生徒が心の底から「挨拶は大切だ」と感じられるようなきっかけを作るには、と担任目線で考えるのです。

このように、学年主任の想いをもとに、学級経営目標をつくります。

【学級経営目標の立て方】



学級経営目標を決めるときは、クラスの生徒が3年生に進級する際にどうなってほしいかをイメージして、短い言葉でまとめます。

02に書いたように、「挨拶をちゃんとする」「学校のルールを守る」では、経営目標になりません。大切なのは、挨拶をすることではなく、仲間に声をかけたいくなるような個人の温かさや優しさを育てることです。

「互いに声を掛け合える、温かさ溢れる人になろう」等、人としてどう育ってほしいかを見いだせるとよいです。

イメージをもつ

01

学校目標はその学校の理想

4月の最初の職員会議で、校長が必ず話す内容です。教室に掲示されている学校も多いかもしれませんが、私たち学級担任は、この学校目標を念頭に置いた上で、学級経営目標を考える必要があります。学級経営目標を達成するためにどのような手立てを講じ、実践していくかを考えるのが担任の仕事です。

例えば、学校目標の中にあるキーワードを抽出して(たくましさ、優しさなどの言葉が多いでしょうか)、学級経営目標にするときにはそれを具体的な生徒の姿にするとかわりやすくなります。たくましさだったら、「何にでも挑戦する勇気」、優しさだったら「誰かの痛みをわかってあげられる人」等です。

02

学年経営目標

同じく4月の最初に行われる学年会で、学年主任が掲げるのが「学年経営目標」です。特に2年生は、前年度の反省と発達の段階による中学生特有の不安定さも目立ってくることから、より明確かつ思いのこもった学年経営目標を提示することでしょう。

学年経営目標にもキーワードが多くありますので、抽出して学級経営目標に生かすとよいです。抽出する際は、「挨拶」「制服の着こなし方」というような実務的な内容は選ばない方がよいです。「こんな人に育ってほしい」という学年主任の思いを感じられる言葉を選びましょう。

03

学級経営目標

学校目標と学年経営目標が明確になったところで、クラスの理想像を思い描きます。ここで大切なのは、自分の個性やこだわりをもちながら、学年や学校の目標に沿った理想像を思い描くことです。

すぐに理想像が描けない場合は、生徒一人一人に、①どのような「心」をもってほしいか ②どのように学習に取り組んでほしいか ③どのように人と関わってほしいか の3点を軸に考えてみましょう。そして、そのような個人が集まったらどのような集団ができあがるか、考えてみましょう。自然と理想のクラスが思い描けるはずです。

04

生徒情報は参考程度に

2年生のクラスを受け持つ時には、受け持つ生徒がどのような生徒なのかという情報ももらえます。生徒のことをある程度知っておくことは大切ですし、特別な配慮を要する生徒に関しては前の担任からしっかりと引き継ぐ必要があります。

しかし、新しいクラスで生徒が情報通りの姿を見せるかという、そうではありません。生徒は「今」を生きています。その時にその生徒を取り巻く環境で、表情も、考え方も、大きく変わります。私たちの仕事は、今日の前にいる生徒としっかり向き合うことです。情報にとらわれすぎることなく、生徒が有意義な時間を過ごせるような手立てを考えて、新年度を迎えてください。

掲示物作り

▶ねらい

教室は、「生徒の学習の場」であり「生徒にとって心安らぐ場」であるべきです。掲示する場所、色使いなど、必要なことは生徒に伝えましょう。

▶指導のポイント

掲示物作りも学級でできる活動の一環です。学級活動は、どうしても生徒の自主的な活動に重きを置きがちですが、自主的な活動イコール完全に生徒任せではありません。そこには、教師側の意図的かつ計画的な指導があり、その上で生徒をいかに自主的に活動させるかということを考える必要があります。

▶掲示物の基本

掲示物に関しては、①教室はあくまで学習の場であること ②教室は心穏やかに過ごせる場所であること の2点を生徒にしっかりと示し、その上で掲示物のデザインを考えさせたり、基調となる色を選択させたりする必要があります。また、学級としての掲示物のテーマ（例えば海など）を話しあって決めてから、テーマに沿って作る方法もあります。

もちろん全員で掲示物を作るのが理想ですが、デザインを全員に強制したり、高度な技術が必要なことを全員に要求したりするのは、生徒にとって苦痛です。生徒が無理なく楽しく参加できるように調整しましょう。「あの紙は僕が切ったんだ」「あれは私が塗ったの」等、自分が関わった何かがあるだけで、その生徒の自尊心は保たれます。また、「切ってくれたからこの掲示物が完成したんだよ」「デザインがとっても素敵だから頑張れたよ」等、互いを認め合えるような会話ができれば、最高です。

指導の留意点

01

情報配置は適切に①

掲示物は、「情報」です。情報にはわかりやすさと見やすさが必要であり、掲示物で言うと、どこを見れば何がわかるのかという「秩序」も必要です。生徒に掲示物のデザインを考えさせる前に、教室のどの位置にどんな情報を配置するかを、ある程度考えておきましょう。

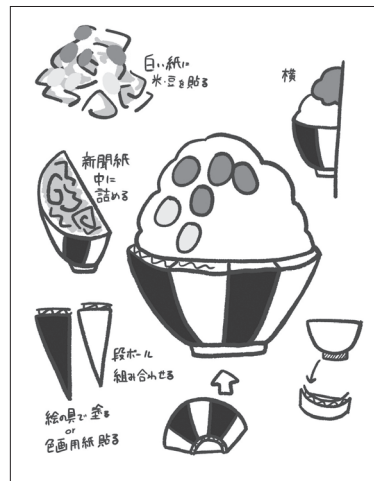
例えば、黒板周りの掲示板に多くの情報があると、授業に集中できない生徒がいます。黒板周りには、なるべく必要最低限の情報だけにし、年間を通して変化の少ないものにする。授業の時は隠せるようにするといった工夫や、ユニバーサルデザインの考え方も必要です。

02

情報配置は適切に②

給食のエプロンを保管するところに一緒に献立表がある、学級組織一覧を掲示するところにその係や委員会からのお知らせを掲示できるようにするなど、情報の配置の仕方にある程度統一感をもたせておくと、生徒に情報が伝わりやすくなります。掲示物のデザインを考えてくれる生徒と話しながら、①掲示物を全員が活用できること ②授業に集中できる配置と色 の2点を話しながら一緒に配置やデザインを決めていきましょう。2年生の時にこのようなことを話しておく、3年生になった時に、機能性と学習のしやすさを考えた掲示物のデザインを考えてくれるようになります。

【学級目標のデザインの依頼例】



【学級目標の実物】



学級目標のデザイン案を作る際は、担任のイメージをしっかりと伝えましょう。

例えば、この左のデザインを生徒につくってもらった時は「学級目標の言葉そのものはあってもなくてもいい」「みんなのコメントが入っていてほしい」「立体がいい」と伝えました。

デザインを募集する際は、クラス全体に考えさせる方法、特定の生徒にお願いする方法などがあります。クラスの実態に応じて、どちらにしても構いません。

実際に作る際は、なるべく生徒全員が取り組める要素があるとよいです。

「1人ずつクラスへの思いを書かせ、それを文字の形に貼る」「全員の手形で文字を作る」などが考えられます。この2つの発想は生徒から出てきたものです。生徒にアイデアを聞いてもよいでしょう。